

竹原らしさを感じるまちに  
人々が集まり賑わいが生まれている

### 1 自然環境

- ① 地球温暖化対策の推進
- ② 自然環境保全と活用の推進
- ③ 生活環境保全の推進

### 2 歴史・文化財

- ① 文化財の保存・継承の推進
- ② 文化財の活用の推進
- ③ 歴史資産の普及啓発の推進

### 3 景観

- ① 誘導・規制による景観保全
- ② 魅力ある景観の保全・創出の推進
- ③ 自然景観の保全

### 4 観光・交流

- ① 観光コンテンツづくりの推進
- ② 誘客の基盤づくりの推進
- ③ 誘客の仕掛けづくりの推進

### 5 移住・定住

- ① 移住に係る情報発信と受入環境づくり
- ② 移住・定住を促進するための総合的な施策展開
- ③ 交流人口・関係人口の創出及び拡大の推進

### 6 コンパクトな市街地とネットワークの形成

- ① コンパクトで持続可能なまちづくりの推進
- ② 持続可能な公共交通体系の構築と利用促進



## 1 自然環境

10年後の  
目指す姿環境への負荷の少ない、自然と調和した  
美しいまちを受け継ぎながら活用している

## 現状

- 二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増加により地球規模での温暖化が進行し、局部的集中豪雨や猛暑日の増加など異常気象が多発しており、生態系、農業生産などに影響を与えています。
- 令和3（2021）年に改正された「地球温暖化対策の推進に関する法律」において、令和32（2050）年までのカーボンニュートラル\*の実現が明記されています。
- 本市では、令和4（2022）年に第2次地球温暖化防止実行計画を策定し、省エネルギー等の取組を推進することにより、温室効果ガスの排出量を削減することとしています。
- 本市は、森林が北部から海岸線まで市域の7割近くを占め、市域を流れる賀茂川などの河川、瀬戸内海などの豊かな自然に恵まれています。
- 本市では、豊かな自然を将来の世代につないでいくため、第2次竹原市環境基本計画に基づいた環境保全に関する施策を展開しています。

## 課題

- 環境の保全や改善は、行政や民間企業、各種団体が連携しながら、市民一人一人ができることから取り組むことが必要です。
- 市民一人一人のカーボンニュートラルへの関心を高め、脱炭素型ライフスタイルへの転換を促すための意識の醸成が必要です。
- 森林所有者の高齢化や担い手不足などにより森林等の荒廃が進行しており、水源涵養\*や土砂災害防止など森林等が持つ公益的機能の低下や野生鳥獣の生態系への影響などが生じているため、森林等の適切な管理が必要です。
- 一部の道路交通騒音を除き、大気質、水質、騒音、土壌は環境基準値以下ですが、良好な環境を保全するため、引き続き監視を続けることが必要です。

## 竹原市の強み

- 大久野島や黒滝山など瀬戸内海国立公園に指定され、守られた自然や生態系
- 自然海浜保全地区に指定された忠海長浜の海岸

## 成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
環境学習の参加者数 (人) (年度)	791 人	900 人
大気質 (SO <sub>2</sub> 、NO <sub>2</sub> ) の環境基準達成率 (%) (年度)	100%	100%
河川水質 (賀茂川水系 BOD75%値) の環境基準達成率 (%) (年度)	100%	100%

## 取組の方向性

### ① 地球温暖化対策の推進

- 令和 32 (2050) 年までに市民・事業者・行政が一体となり、地域全体で温室効果ガスを削減する取組を推進します。
- 竹原市地球温暖化対策地域協議会「エコネットたけはら」をはじめとする関係機関と連携し、市民や事業者に対する地球温暖化対策意識の醸成を図り、環境にやさしい生活を習慣づけるための情報提供及び啓発活動を推進します。

主な取組

- クールビズ\*・ウォームビズ\*・COOL CHOICE\*の啓発
- 公共施設の照明のLED化、公用車への電気自動車等の導入
- 竹原市地球温暖化対策地域協議会「エコネットたけはら」との連携強化 など

### ② 自然環境保全と活用の推進

- 森林等が持つ国土保全機能をはじめとする多面的で公益的な機能を発揮させるため、森林等の適切な管理を促進します。
- 環境美化活動や自然環境を活用した体験活動などを通して、自然環境保全に対する意識啓発を図るとともに、交流人口の拡大に努めます。

主な取組

- 森林環境税や森づくり県民税を活用した人工林の間伐や子供の木材に触れる機会の創出など森林等への理解と適切な管理の促進
- 稚魚放流や農業体験などを通じた自然環境の活用促進
- 賀茂川清掃や瀬戸内クリーンアップなど市民協働による美化活動の実施 など

### ③ 生活環境保全の推進

- 市民が健康で安心して暮らしていくため、定期的な調査を実施し、大気質の保全、水質・水循環の保全、土壌の保全、騒音や悪臭の防止に取り組みます。

主な取組

- 大気観測、公共用水域等の水質検査の実施
- 道路交通騒音の調査の実施 など

関連する  
分野別  
個別計画

- 第2次竹原市環境基本計画 令和3～令和12(2021-2030)年度
- 第2次竹原市地球温暖化防止実行計画 令和4～令和12(2022-2030)年度



黒滝山



的場海岸清掃

## 2 歴史・文化財

10年後の  
目指す姿

### 歴史と文化財が保存・継承され、 地域の活性化に活かされている

#### 現状

- 江戸時代から製塩業や酒造業で栄えた竹原の町並みは、昭和 57（1982）年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。
- 町並み保存地区周辺に所在する文化施設への入館者数は、平成 27（2015）年をピークに減少傾向にあります。
- 市が所有する公開文化財・文化施設は、経年劣化が進行し、修理が必要な物件が増加しています。

#### 課題

- 文化財を保存し、継承していくためには、適切な修理や維持管理と公開などによる活用の両立を図ることが必要です。
- 文化財を取り巻く歴史的風致\*の維持・保全に努め、文化財との一体的な活用を図ることが必要です。
- 本市の歴史や文化財などの歴史資産を後世に伝えていくためには、歴史資産の普及啓発を継続することが必要です。

#### 竹原市の強み

- 伝統的な景観が維持された町並み保存地区
- 酒造業等の伝統産業や地域独自の祭りなどで形成された本市独自の歴史的風致
- 北前船の寄港地としての歴史

#### 成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
文化4施設（森川邸・松阪邸・光本邸・歴史民俗資料館）活用日数（延べ）（日） (年度)	321 日	370 日
国・県・市指定及び登録文化財件数（合計）（件） (各年3/31 現在)	36 件	38 件
伝統的建造物群保存地区における保存修理・修景事業の延べ実施件数（累計）（件） (各年3/31 現在)	161 件	168 件

## 取組の方向性

### ① 文化財の保存・継承の推進

○文化財及び歴史資料の調査・記録を実施するとともに、文化財指定・登録等により後世への保存・継承を図ります。

主な取組

- 文化財や歴史資料の調査と記録保存
- 文化財の新規指定・登録による保存・継承
- 町並み保存地区における伝統的建造物の保存修理と修景による歴史的景観の保全 など

### ② 文化財の活用の推進

○町並み保存地区をはじめとする文化財を適切に維持し、文化財の公開活用に取り組めます。

主な取組

- 文化財の公開活用の促進
- 文化財の適正な維持管理
- 歴史的建造物の活用に向けた取組 など

### ③ 歴史資産の普及啓発の推進

○本市の歴史や文化財などの歴史資産に対する誇りや愛着を醸成するため、本市の歴史資産の普及啓発を実施し、次世代育成に努めます。

主な取組

- 歴史・文化財に関する講座等の開催による普及啓発
- 文化財に関する情報発信 など

関連する  
分野別  
個別計画

- 竹原市教育大綱 令和6～令和10(2024-2028)年度
- 竹原市竹原地区伝統的建造物群保存地区保存計画 昭和57(1982)年(平成28(2016)年改正)～



庭園の調査



文化財でのアート展



遺跡の見学

## 3 景観

10年後の  
目指す姿自然や歴史的な町並みなどの活用による  
竹原らしい景観が創出されている

## 現状

- 地域固有の景観の維持や新たな景観の創出を図ることにより、観光客の増加やエリア価値の向上など、地域活性化につながる施策効果が期待され、全国的に様々な地域で景観を活かしたまちづくりが進められています。
- 本市は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、中心市街地には、伝統的建造物群保存地区（町並み保存地区）を有しており、住民の協力や条例等の規制により、連続性のある魅力的な景観が保全され、中心的観光資源として多くの観光客が訪れています。
- 町並み保存地区の周辺にも歴史的建造物が多く存在しており、伝統的建造物群保存地区と一体となった本市固有の景観を形成しています。
- 令和4（2022）年3月に竹原市景観計画策定、同年7月に竹原市景観条例及び屋外広告物条例に基づく届出制度を開始し、官民連携で新たな魅力ある景観の創出及び保全していくための環境を整備しています。

## 課題

- 伝統的建造物群保存地区では、住民の協力や条例の規制等により、歴史的な竹原らしい景観が保全されていますが、伝統的建造物群保存地区と一体となった周辺地区では、竹原市景観計画重点地区の景観形成基準に配慮した建築行為等が行われるように、市民の景観づくりへの意識醸成を図る取組が必要です。
- 人口減少により、伝統的建造物群保存地区や周辺地区で空き家が増加するなど、連続性のある歴史的景観の保全に大きな問題を抱えています。歴史的景観を保存するためには、歴史的建造物を積極的に活用する取組が必要です。
- 市街地と一体となって良好な景観を形成している瀬戸内海の島々や山々などの自然景観を引き続き守っていく取組が必要です。

## 竹原市の強み

- 町並み保存地区などの連続性のある魅力的な景観が保全された中心市街地
- 風致地区\*指定による自然景観や歴史的な町並み、的場公園などの都市景観が一体となって維持された良好な景観

## 成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
景観まちづくり団体数 (団体) (各年3/31現在)	0団体	3団体
景観まちづくり活動 (研修会・イベント等) の実施回数 (回)	7回	12回

## 取組の方向性

### ① 誘導・規制による景観保全

○竹原市景観計画の策定、竹原市景観条例及び竹原市屋外広告物条例の制定を踏まえ、総合的な景観施策により、景観の保全及び改善に取り組めます。

主な取組

- 市民や事業者に対する新たな景観制度に係る周知
- 魅力ある景観を阻害している建築物や工作物の改善
- 魅力ある景観を阻害している屋外広告物の改善 など

### ② 魅力ある景観の保全・創出の推進

○民間活力の活用や支援を行い、空き家となった歴史的建造物を積極的に活用することにより、魅力ある景観を保全するとともに、観光客の回遊性向上を図り、地域の活性化を進めます。

○市民等の景観まちづくりに対する意識醸成や景観まちづくり団体を育成するため、景観保全や活用に対する啓発やイベント、研修会等の開催など、市民等と行政の協働により、魅力的な景観の創出に取り組めます。

主な取組

- 官民連携による歴史的建造物の活用
- 市民等を対象とした啓発活動や団体に対する研修会等の開催
- 景観まちづくり団体との協働による景観保全活動の推進 など

### ③ 自然景観の保全

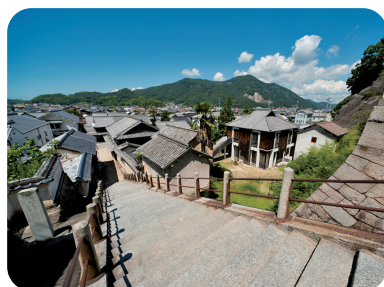
○自然公園法や都市計画法の風致地区\*など、建物・工作物の建築や樹木の伐採などの規制により、引き続き良好な自然景観を保全します。

主な取組

- 建物の建築や山林の開発行為の規制など自然景観の保全
- 啓発活動などによる自然景観に対する市民意識の醸成 など

関連する  
分野別  
個別計画

- 竹原市景観計画 令和3(2021-)年度～
- 第2次竹原市環境基本計画 令和3～令和12(2021-2030)年度
- 第3次竹原市都市計画マスタープラン 平成28～令和7(2016-2025)年度



町並み保存地区



朝日山

## 4 観光・交流

10年後の  
目指す姿観光客の滞在時間が延び、  
観光消費額が増加している

## 現状

- 国や県の関連計画と連携し、令和5（2023）年3月に持続可能な観光地域づくりを目指した「竹原市観光振興計画」を策定しました。
- 計画の推進にあたっては、令和4（2022）年12月に設立した「（一社）竹原観光まちづくり機構」が中心となり官民一体となった観光振興に取り組んでいます。
- 本市は、高速道路や広島空港に近接し、広域交通網へのアクセス性が高く、瀬戸内海に面し、豊かな自然景観や、湯坂温泉郷、町並み保存地区など多様な観光資源を有しています。
- 国内外からの観光客数は、アニメ「たまゆら」やNHK連続テレビ小説「マッサン」の放映、また、SNS\*等で注目された「うさぎ島」などにより、平成27（2015）年に過去最高を記録して以降、西日本豪雨災害や新型コロナウイルス感染症の影響により減少が続いています。

## 課題

- 本市の観光は、通過型観光が多いことから、滞在時間の延長や、宿泊客の増加など、観光消費額の増加につなげる取組が必要です。
- 魅力ある観光資源が豊富にあるものの、観光コンテンツ\*化されていないことから、今ある資源の磨き上げと新たな観光コンテンツの創出に取り組む必要があります。
- おもてなし・サービスの充実に向け、インバウンド観光\*に対するサービス向上を始めとした受入環境の醸成が必要です。
- 市内事業者、住民、行政等で地域一体となった観光施策を進めていくため、情報の共有が必要です。
- 本市の観光地としての認知度は、全国的に見て決して高いとは言えないため、認知度を高める取組が必要です。

## 竹原市の強み

- 歴史的価値を高く評価され、「たまゆら」や「マッサン」などで注目された町並み保存地区
- うさぎで世界的に有名となった大久野島
- 高速道路や新幹線、空港など主要交通機関の近接性
- 瀬戸内海の景観とマリナクティビティ\*に適した自然環境

## 成果指標

成果指標名		現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
観光消費額 (百万円)	(暦年)	2,728 百万円	8,883 百万円
総観光客数 (千人)	(暦年)	691 千人	1,450 千人
竹原市内の宿泊者数(観光客の旅行形態調査) (千人)	(暦年)	124 千人	280 千人
外国人観光客数 (人)	(暦年)	653 人	35,000 人
入込観光客数 (千人)	(暦年)	522 千人	1,308 千人



## 取組の方向性

### ① 観光コンテンツづくりの推進

- 本市の魅力ある既存の観光資源や新たな観光コンテンツ\*を創出し、誘客につながる観光コンテンツとして磨き上げます。
- 本市の歴史・文化的価値の高い「たけはら町並み保存地区」や周辺地区との連携を図り、飲食や体験など楽しめるまちあるき観光を充実させ、滞在時間の延長を図ります。
- 本市の観光事業を实践する事業者や観光振興を展開するプレイヤーの誘致・育成に取り組みます。

主な取組

- 独自資源・ストーリーを活用した観光コンテンツの造成
- 大久野島や町並み保存地区などの周遊促進・朝夜のコンテンツ強化
- 観光コンテンツ造成を行う事業者・プレイヤーの誘致等 など

### ② 誘客の基盤づくりの推進

- インバウンド観光\*も含め観光客がストレスなく観光を楽しめるよう多言語化等の受入環境の整備を進めます。
- 観光分野におけるDX\*の推進により、利便性向上を図るとともに、デジタル化によって収集できるデータの活用により、持続可能な観光振興の実現を目指します。
- （一社）竹原観光まちづくり機構を中心に市内事業者等との連携を図り、情報を共有しながら、戦略的な観光推進につなげます。

主な取組

- 多言語化等の受入環境整備
- デジタル活用による利便性の向上
- （一社）竹原観光まちづくり機構を中心とした情報の共有 など

### ③ 誘客の仕掛けづくりの推進

- 本市の認知度向上に向け、国内外への継続的な観光プロモーション\*を展開します。
- 広島県観光連盟や近隣市町等と連携した広域的な観光プロモーションを実施し、本市の魅力を発信します。

主な取組

- 各種媒体を活用した観光プロモーション、観光PRイベントへの参画
- 旅行代理店等への営業活動
- 広域連携による合同観光プロモーション など

関連する分野別個別計画

- “外国人目線で作る”竹原ブラッシュアップアクションプラン 平成28(2016)年～
- 竹原市観光振興計画 令和5(2023)～令和9(2027)年



町並み保存地区



たけはら憧憬の路



大久野島のウサギ

## 5 移住・定住

10年後の  
目指す姿

### 住みやすさが認知され、市民が住み続けたいと思い、 市外の人たちが住みたいと思うまちになっている

#### 現状

- 大都市圏において、地方暮らしの相談が増加しており、内閣府が実施した世論調査では、若い世代の田園回帰の意識の高まりが現れています。また、コロナ禍以降、テレワーク移住が増加傾向にあります。
- 本市の人口は、近年 500 人前後の減少で推移しており、特に、10～50 代の女性の減少が著しく、少子高齢化の現状から今後も人口減少の流れは続きます。
- 近年、大久野島のウサギやアニメ「たまゆら」、NHK連続テレビ小説「マッサン」の放映などにより、知名度が上昇し、交流人口も増加傾向にありましたが、西日本豪雨災害や新型コロナウイルス感染症の影響により減少が続いています。

#### 課題

- 社会基盤の維持や企業が活動するためには、生産年齢人口\*の確保が急務であり、本市の住みやすさの追求による市民の定住意識の醸成と市外の人たちの本市への移住に向けた取組が必要です。
- 移住先として選ばれるため、本市の認知度を向上させるとともに、本市での生活を体験し、住みやすさを実感できるような取組が必要です。
- 本市の強みである多数の「交流人口」を「関係人口」、「移住・定住人口」へと繋げていくことにより、地域の賑わいの核となる人材を確保し、まちの活性化を図る必要があります。

#### 竹原市の強み

- うさぎで世界的に有名となった大久野島
- 歴史的価値を高く評価され、「たまゆら」や「マッサン」などで注目された町並み保存地区
- 瀬戸内海の美しい景観とマリニアクティビティ\*に適した自然環境
- 生活に必要な機能がコンパクトにまとまった市街地
- 協働のまちづくりによる住民自治組織等の活発な地域活動

#### 成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
移住者数 (市の施策を活用したもの) (人) (年度)	19 人	30 人
移住相談数 (件) (年度)	89 件	140 件
空き家バンク成約件数 (累計) (件) (各年 3/31 現在)	111 件	183 件
新規創業者数 (人) (年度)	15 人	30 人

## 取組の方向性

### ① 移住に係る情報発信と受入環境づくり

- 県が開催するPRイベントなどに参画し、移住に必要な子育て、仕事、住まいに関する情報や支援策、本市の魅力等を積極的に発信することで移住先としての知名度・認知度の向上を図ります。
- 移住希望者に対し、お試し住宅など「たけはら暮らし」が体験できる環境づくりを推進します。
- 関係機関と連携して、物件登録数の増加やマッチングの強化など空き家バンク制度を充実させ、空き家など住まいに関する情報を移住希望者に提供します。
- 先輩移住者や地域住民と連携し、移住者のニーズに合ったセミナーや体験プログラムを提供します。
- 移住定住サポートセンターを運営し、観光資源及び移住定住に関する各種情報発信を行うとともに、様々なニーズに合致した相談対応を実施します。

主な取組

- 大都市でのイベント等を活用したPR活動の推進
- お試し住宅・お試しオフィスなど受入環境づくりの推進
- 空き家バンク制度の充実や情報発信
- 移住・定住セミナー・イベントの実施
- 移住定住相談体制の推進 など

### ② 移住・定住を促進するための総合的な施策展開

- 瀬戸内の温暖な気候や生活に必要な機能がコンパクトにまとまった市街地を活かしながら、妊娠期から切れ目のない子育て支援、創業支援、産業振興、快適な住環境づくり、多様な人たちが活躍できる環境づくりなど、移住・定住を促進するための住みやすさに注力した施策を総合的に展開します。

主な取組

- 妊娠期から切れ目のない子育て支援の充実
- 創業支援や産業振興の推進
- 快適な住環境や多様な人たちが活躍できる環境づくり など

### ③ 交流人口・関係人口の創出及び拡大の推進

- 本市の魅力や市民活動に関する様々な情報を収集・発信し、市域を越えて広く「たけはらファン」を獲得し、交流人口や関係人口の増加につなげます。
- 地域に多様な形で関わる関係人口の創出を推進し、地域活動や課題解決における担い手の確保により地域の変化を促すとともに、継続的なつながりを深化させることで、将来的には、本市に関わりのある人々の移住・定住につながるよう、移住施策と一体的に取り組んでいきます。

主な取組

- 関係人口のプラットフォーム\*の運営
- 地域課題解決における担い手確保の取組 など



竹原市での移住イベント



充実した子育て環境



関係人口創出事業おてつたび

## 6 コンパクトな市街地とネットワークの形成

10年後の  
目指す姿

### 瀬戸内に映える コンパクトで住みやすい都市づくりができています

#### 現状

- 国では、地方都市での地域活力の維持と医療・商業等生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう地域公共交通と連携したコンパクトプラスネットワークのまちづくりを推進しています。
- 本市は、空港などの高速交通体系や島しょ部をつなぐ港など交通利便性が高く、瀬戸内海や伝統的建造物群保存地区などの地域資源があります。
- 中心市街地に行政・商業・医療等の生活機能が集積し、新開土地区画整理事業\*等により良好な居住環境整備が図られるなど、一定程度コンパクトな市街地形成が進んでいます。
- 外出スタイル・ニーズに呼応した運行方法の見直しを図り、公共交通不便地区へ交通サービスを提供するため、令和5（2023）年からデマンド型乗合タクシーを運行しています。
- 人口減少や過度の自動車依存により公共交通の利用者は減少しています。交通事業者においても、乗務員の人材不足、採算性の問題等で事業の縮小等を余儀なくされるなど地域公共交通の維持が困難になっています。

#### 竹原市の強み

- 中心市街地に行政・商業・医療・福祉等の都市機能が一定程度集積されたコンパクトな市街地
- JR呉線、広島空港、高速道路、島しょ部を結ぶ航路などの交通要衝

#### 課題

- 持続可能な都市づくりに向け、行政・商業・医療施設など住民サービスに必要な生活機能の集約化や、地域特性を活かした都市の魅力向上と賑わいの創出が必要です。
- 中心市街地の大部分が浸水想定区域、市街地縁辺部が土砂災害等の災害リスクが高い区域に指定されているため、災害リスクを軽減するための都市づくりが必要です。
- 本市の人口減少・少子高齢化は周辺地域に比べ速いスピードで進展していることから、高齢者のみの世帯や一人暮らしの高齢者が増加していくことが想定されるため、日常生活での移動手段の確保の取組が必要です。
- 地域公共交通を維持・確保していくために、地域の特性などを踏まえた、地域にとって利用しやすい公共交通ネットワークの構築の取組が必要です。



新開土地区画整理事業

#### 成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
居住誘導区域*内の人口密度（竹原地区）（人/ha） （各年1/1現在）	34.1人/ha	33.4人/ha
居住誘導区域内の新規住宅着工割合（%） （各年3/31現在）	58.0%	65.0%

## 取組の方向性

### ① コンパクトで持続可能なまちづくりの推進

- 道路・公園・下水道などの都市基盤整備、まちのバリアフリー\*化、子供や子育て世帯に魅力的な環境整備、浸水や土砂災害など災害リスクを低減した防災都市づくりなど、誰もが安全・快適に暮らせる居住環境が整った都市づくりに取り組みます。
- 人口減少社会においても、竹原地区や忠海地区など、各地域の特性に応じ、日常生活に必要な生活利便施設（商業・医療・福祉・子育て施設等）を集積することによって、緩やかな居住の誘導を図り、一定程度の人口密度を維持し、コンパクトで利便性の高い拠点を形成します。
- 市庁舎移転後の跡地を活用して、中心市街地の老朽化・分散化した公共施設を集約するとともに、民間機能とも連携した、利便性の高い多機能な活動拠点づくりに取り組みます。
- コンパクトで魅力ある拠点を形成することを目的に、まちなかを居心地が良く、歩きたくなる空間とするため、民間主体の活動を支援しながらデジタルツールを活用したウォークアブル\*なまちづくりを推進します。
- 瀬戸内海や山などの自然や歴史的な町並みなどの活用による竹原らしい景観を創出するとともに、地域資源を活用した観光地の魅力向上や交流の場の創出など、地域特性に応じた魅力ある拠点を形成します。

主な取組

- 新開土地区画整理事業\*の推進
- 緩やかな居住誘導によるコンパクトな市街地の形成
- 公共施設ゾーン再整備事業の推進
- 竹原市立地適正化計画の改定と浸水対策等による防災都市づくりの推進
- 市民等のまちづくり活動を支援するためのデジタルツールの活用
- 竹原市景観重点地区における歴史・ウォークアブルなど、各地域の特性を活かした景観まちづくりの促進 など

### ② 持続可能な公共交通体系の構築と利用促進

- 交通事業者等と連携し、生活路線の利便性向上、高速交通体系との連絡、市内観光スポットの連絡・回遊性の向上など、公共交通のあり方を検討し、市民や観光客が利用しやすい持続可能な公共交通ネットワーク体系を構築します。
- デジタルを活用した時刻表などの運行情報、乗換情報の提供等の情報発信や快適な待合環境づくり、案内表示の充実した乗換環境づくりなど、公共交通の利用促進に取り組みます。

主な取組

- 地域公共交通計画の策定
- 市民の生活の基盤となる交通手段の維持・確保
- デジタルを活用した時刻表などの情報発信
- 快適な待合環境及び充実した乗換環境の整備の検討 など

関連する  
分野別  
個別計画

- 竹原市立地適正化計画 平成 30～令和 19 (2018-2037) 年度
- 第3次竹原市都市計画マスタープラン 平成 28～令和 7 (2016-2025) 年度
- 竹原駅前エリアウォークアブルビジョン 令和 3～令和 12 (2021-2030) 年度
- 竹原市地域公共交通網形成計画 令和 2～令和 6 (2020～2024) 年度

